



本 は 知 識 の 根 本

校 長 佐々木 秀之

「霜降」を過ぎ、秋も酣。各地からは紅葉の便りも寄せられるようになりました。秋は芸術の秋、読書の秋、勉学の秋、食欲の秋、スポーツの秋と例えられるように、じっくり物事に取り組んだり、習得したりするのによい季節です。

10月27日から11月9日まで（「文化の日」を中心に2週間）は第74回「読書週間」です。本校も10月の1か月を「読書月間」として全校で読書に取り組みました。

*

「読書週間」は関東大震災からの復興期に、日本図書館協会が全国で読書の鼓吹・図書館の普及・良書の推薦を目的とした行事を展開したことを源流とし、終戦2年後の昭和22年、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意を一つに、出版社、書店、公共図書館等が力を合わせ、新聞、放送のマスコミも加わって第1回が開催されたそうです。

「本」という字は1年生で習う漢字です。「木」の根元に印を付けたものが「本」という漢字の成り立ちです。木の根本の「根本」は「物事がそこから出発して成り立っている、一番大切なもと」という意味です。ですから、「本」という字を含む熟語には、本物、本当、本質、手本、見本、基本などの大切なものを表す意味が多くあります。一冊の書物・書籍を「本」というのは、本が私たちの「知識の本」になるからではないでしょうか。

本は文字でつづられています。では、一冊の本にはどれくらい文字数があるのでしょうか。例えば、文庫本1ページには、600文字から700文字があります。一冊200ページだとすれば、10万文字前後になります。小さな一冊の本につづられたたくさんの文字、その文字が伝えてくれる様々な知識や情報、新しい世界や不思議な物語……なんだか一冊の本が宝箱のように見えてきます。

Walt Disney（ウォルト・ディズニー）は「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。そして、何よりも、宝を毎日味わうことができるのだ」という言葉を残しています。

*

今年の読書週間の標語は「ラストページまで駆け抜けて」です。現在、コロナ禍にあり、なかなか大勢で集うことができません。こんな時だからこそ、一人でも楽しめる本を大いに楽しみ、子供たちに読書習慣が確立することを願っています。



<第74回読書週間マーク>